

社会教育指導員の部屋

2020.10月

生涯学習課 社会教育指導員 浅沼 芳子

望月公民館講座「自然観察教室（湯の丸高原～池の平湿原）」

幸運にも天気予報が当たらず、晴天に恵まれた秋の日。湯ノ丸高原ビジターセンターから三方見晴遊歩道を通り、見晴岳・三方ヶ峰経由で池の平湿原を散策する講座のお手伝いをしました。

講座の参加者は12名。募集開始から短時間で定員いっぱいとなったそうです。例年でしたらより多くの人数を募集できるところ、コロナ禍により定員を減らさざるを得ません。今後も継続するであろう大きな悩みです。

山に慣れた人ならハイキングコースなのでしょうが、急勾配の箇所もあり、ゆっくりと歩きます。歩き始めは調子よく、しかしだんだん皆が無口に…。下ばかり見て歩いていると赤黄の落ち葉で埋め尽くされたところに差し掛かり、上を見上げると見事な紅葉のトンネルです。講師の「もうじき着きますよ」の声掛けに「先生のもうじきと我々のもうじきはずいぶん違うんじゃないかね」など言いながら励まされつつ見晴岳に到着。名前に違わず見晴が良いです。「望月公民館は陰になってしまい見えませんが、望月クラインガルテンは見えませぬ。」と館長。景色を眺めつつ早めの昼食になりました。



良い天気で、どこを撮っても絵葉書のように！

見晴岳から三方ヶ峰へ向かうルート脇は、柵で仕切られているところがあり、その向こうにはコマクサ園があります。「盗掘されてしまうので柵で守っています。たくさん移植もしました。」と講師。参加者から「昔は金網の柵だったけど今はロープになったんですね。少しはましになったのかな。」と声が上がります。盗掘！に悲しさと憤り、そしてコマクサに思いを寄せ行動を起こしてこられた方々の熱い想いを感じるお話でした。

下って池の平湿原です。もうお花畑には季節外れなので、咲いている想像を膨らませながら遊歩道を巡ると駐車場で帰りのバスが待っています。ゆったり半日強のステキなコースでした。

後日、参加者アンケートを見せてもらいました。コロナ禍で様々なイベントが中止になる中、このような講座の開催を心待ちにしていたとの声が多くありました。また、花の時季の開催や、季節ごとの開催の希望もみられました。

このような野外講座は、開放空間で、密集や密接も避けやすいことからコロナ禍においての催しに向いているとも言えます。しかし、さすがに室内での講義や実習に比較すると、安全性の担保や、費用、主催者側の人員確保など、クリアしなければならない課題は幾つも見つかります。また、ほかの講座との兼ね合いもあり、良い季節だけを選んで企画、というわけにもいきませんし、実施は当日の天候にも左右されてしまいます。なかなか回数を増やして、は難しそうです。

そこで提案です。公民館の講座に参加してみたら、次にはお仲間や家族で行ってみるはどうでしょうか。講座と同じコースは難しくても、講座で学んだノウハウを使えばいつものお散歩コースでも新たな視点で楽しめるのではないのでしょうか。公民館の講座をひとつの手がかりとして、楽しみにつなげていくのはいかがでしょうか。

コロナ禍の社会だからこそ、積極的に楽しみを見つけていきたいですね。

